

# 働くスニーカー 男の

× 01 蔵元

七本鎧 富田酒造 富田泰伸

龍の如く強き意志、日本から世界へ。

「日本酒は面白い。髣がらないものを髣げ、まともなものをもとめていく。」  
富田泰伸氏は滋賀県木之本、琵琶湖の最北端で40余年続く老舗の地酒蔵元の15代目。革新的な挑戦を続ける、注目の若手蔵元である。

今から約10年前、脱サラして家業を継ぐことを決心した。「今、守らねば無くなると思った」と、当時を振り返る。日本酒の需要が下がり始めた頃だった。若者へ向けた日本酒イベントの企画では、消費者の声に耳を傾けた。手ぬぐいやTシャツを作り、新たな視点から日本酒への入り口を増やすなど、様々な試みを繰り返す。

そんな挑戦の中でも、海外への進出は大きな一歩であった。「日本の国酒を世界の酒に」を心に、海外へ日本酒を伝え続けた。「日本を出て海外へ行けば日本人の心を取り戻すようなそんな気持ちにあふれる」と、富田氏は言う。その活動はまるで、日本酒を通じて日本を伝えるようなようだ。  
忙しい毎日、迷うことも悩むこともある。

そんな時は、琵琶湖を眺める。地酒の「地」の部分を大切に、地元産の米にこだわり、酒を造り続けている。「世界から見れば小さなこだわりかもしれない。でもこれを守る。ことが、次の100年に髣がると信じている。」

挑戦を続ける男の足元を支えるに相応しいスニーカーがある。龍のように力強く、その活躍は世界を目指す。日本ブランドのシューズが皆無だった時代、日本人の技術と美意識で作られたスニーカーが生まれた。決して諦めない強い意志を持って、世界へ向けて踏み出された一歩。龍の意志は途切れることなく前へと進む。

「同じ志を持って作られたスニーカーは御守りでもある」と、富田氏は微笑む。ドラゴンベアードがスニーカーを通じて、日本から世界を目指すように、富田氏の活動も日本から世界へ。こだわりを持ち活動続ける男が選ぶスニーカーは、いつだってその挑戦を支えていく。アクティブに力強く踏み出す一歩は、足跡という男の軌跡を見せてくれる。



富田 泰伸

Yasunobu Tomita

富田酒造15代目。1974年滋賀県生まれ。大学卒業後、東京の医薬品メーカーに勤務。2002年より家業を継ぐ。海外の醸造所やワイナリーを視察し、日本酒の進むべき道を模索。日本酒イベントの企画や海外進出を成し遂げ、地元へ根付いた酒造りを大切に活動を行っている。



DRAGON BEARDは、年間1,000を超えるデザイン画の中から、実際に製品化されるのは20~30スタイル程度にまで絞り込む。本場に納めたモデルだけが製品として市場に流通するのである。

お問い合わせ G.N.C./a.c.i 06-6292-7771  
www.dragonbeard.net

## Yasunobu Tomita Favorite Item

DB-127

material: 天然皮革  
price: 14,700円

オールリアルレザータイプでアッパーはリザードの型押しを採用。ベーシックなスニーカーデザインでありながら、カジュアルモードからジャケパンスタイルまで様々な対応。アウトソールはオリジナルのカップソール。また、履き心地を高めるためにインソールはカップインソールを採用。



OUTSOLE